

学校を超えて地域学を支える 民間機関の設立プロジェクト

NPO法人岡山NPOセンター

組織体制

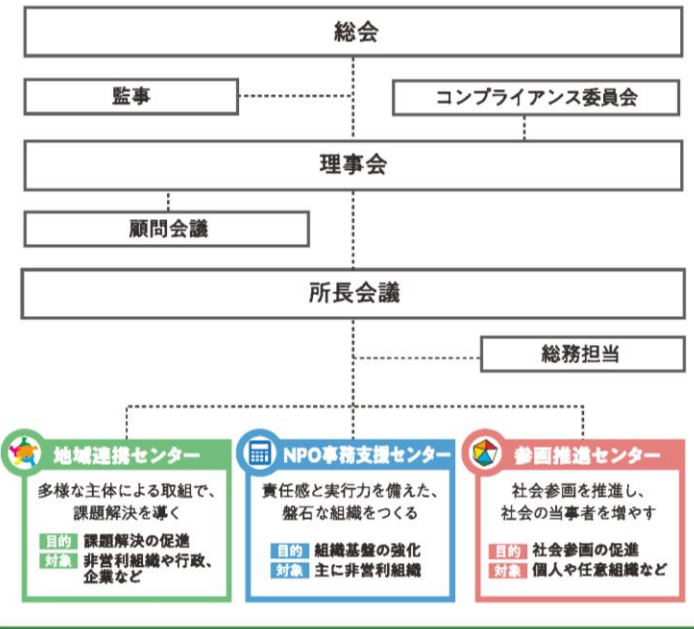
岡山NPOセンターでは、「NPOをはじめとした多様な主体と共に、地域の課題解決と価値創造について現実の一步先の取り組みと仕組みづくりにおかやまに根差した支援者として取り組み、この地域においてお互いの個性を尊重しあって生活できる未来型のコミュニティと持続可能な地域運営モデルの形成を図ることにより、持続可能で豊かな市民社会を実現することを目的とする」という目的を掲げ、3つのセンターで活動を行っています。

岡山市内をはじめ各地に拠点があり、それぞれの専門性をもつ職員が駐在しています。次のページより、各センターで実施した2019年度の事業についてご紹介します。



岡山NPOセンター 2020年度組織図

持続可能で自然治癒力の高いまちの実現を目指して



1 法人本部事務所

〒700-0822 岡山市北区表町一丁目4-64上之町ビル3階
 電話 086-224-0995 FAX 086-224-0997
 メール npokayama@gmail.com
 開所日 月～金9:00-17:00

岡山NPOセンターの本部機能をもつほか、3つのセンターの職員が駐在し、日々の業務を行っています。同じビルの中に会議室を設けており、NPO事務支援センターでのご相談や各種支援、打ち合わせなどもここでを行っています。「どこへ相談するのが適切かわからない」「どの拠点を利用できるか知りたい」などございましたら、法人本部事務所までお気軽にお問い合わせください。



※専用駐車場はありません。近隣のコインパーキングをご利用ください。
 ※事務所は3階です。
 扉のインターホンを押してお呼び出してください。

2 岡山県ボランティア・NPO活動支援センター「ゆうあいセンター」(岡山県指定管理)

〒700-0807 岡山市北区南方二丁目13-1きらめきプラザ2階
 電話 086-231-0532 FAX 086-231-0541
 メール you@okayama-share.jp
 開所日 祝日・年末年始を除く 火～金9:00-21:00 / 土・日9:00-18:00

岡山県から指定を受けて社会福祉法人岡山県社会福祉協議会と共同で管理・運営をしています。ボランティアやNPOに関する相談対応や情報提供、会議室の貸し出しなどを行っています。また、県域の施設として備前・備中・美作のそれぞれの場所で勉強会やセミナーなども開催しています。



3 ESD・市民協働推進センター(岡山市管理)

〒700-8544 岡山市北区大供一丁目1番1号 岡山市役所2階
 電話 086-803-1062
 メール esd-smc@googlegroups.com
 開所日 月～金9:00-17:00

行政・NPO・町内会・企業・学校・公民館などの様々な組織をつなぎ、協働を推進するコーディネート機関です。行政と団体等との協働事業の伴走支援や、課題解決のためのプロセスを共に考えるワークショップの運営などを担います。



4 ハッシュタグ岡山

〒700-0962 岡山市北区北長瀬表町二丁目17番80号
 プランテ岡山北長瀬内
 電話 086-236-7458
 受付時間 9:00-21:00
 開所日 無休

「新しい公民館」を目指し2019年に開設されました。場所の貸し出しのほか、だれでも気軽に参加できる様々なイベントを開催しています。岡山NPOセンターの職員が駐在し、地域とみなさまをつなぐ役割を担っています。



5 まび復興ボランティア団体・NPO シェアオフィス「まびシェア」

〒710-1306 岡山県倉敷市真備町有井94
 備前観光開発ビルA-205
 電話 070-3139-0253
 メール seeds.kuravol@gmail.com
 開所日 火曜日を除く10:00-19:00

平成30年7月豪雨時の支援活動をきっかけに、2019年5月に開所しました。災害対策や復興支援に関する会議や打ち合わせにお使いいただけるスペースを備えているほか、岡山NPOセンターで「災害支援ネットワーク」の事務局を担う職員が駐在しています。



『学校を超えて地域学を支える民間機関の設立プロジェクト』

【背景と目的】

少子高齢化と東京一極集中による課題を解消し、地域の産業と暮らしを支える取り組みが必要。

●地域と地域でのキャリアへの理解を高める教育(地域学)

●社会へのまなざしとかかわる姿勢を養う教育(市民教育)

→ 小中高大学だけでは、①人手不足、②知識不足、③接続不足の面で困難

地域社会の企業やNPOと学校とを繋ぐコーディネートを担う民間の支援機関(ソーシャルアクティブラーニングセンターおかやま【SALCO】)の立ち上げを目指す。

事業名	アウトプット	アウトカム
参加可能なプログラムの情報収集と提供	情報提供会員登録数 ／105名	大学生が活動を知るためのツールとして活用し、地域での活動に関心を寄せている。 ／登録数105名のうち、活用した学生が10名
モデルプログラムの開発1 (マッチング)	職場体験やボランティア体験等へのマッチング ／年間のべ10件	学生が活動を通じて、市民として何らかの学びを得る。 ／マッチングしたもののうち、70%以上の協力団体・参加学生が、何らかの学びを得ている。
モデルプログラムの開発2 (学校とのAL協働実施)	モデルとなるプログラムのコーディネーター／1校	実施校ができることにより、SALCOの価値が理解される。 ／民間の力を借りた実施に対して理解をしている教員2名
(活動基盤強化) SALCOでコーディネーターを務める兼務職員の配置。	本業務について理解をし、行動できる職員／1名	高等教育と地域実践との接続・往復により、学びと取組の深化に繋がる。 ／SALCOの仕組みについて1以上の自治体担当者が理解している。

事業名	実施内容	状況など
参加可能なプログラムの情報収集と提供	<ul style="list-style-type: none"> ・SALCOのLineアカウント作成 ・インターンシップやボランティア活動に関する情報を提供 (現在、登録約30名) 	<p>大学での出前講座や大学ボランティアサークルへのインタビュー時に紹介 → 学生との直接的な接点を増やしながら登録数を増やしたい。</p>
モデルプログラムの開発1 (マッチング)	<ul style="list-style-type: none"> ・SALCO窓口での相談対応 ・職場体験やボランティア体験等へのマッチング 	<p>相談窓口だけでは利用に繋がりにくい ため、「学生による学生のための事業」を実施するべく、準備を進めている。 → 学生によるコーディネート。</p>
モデルプログラムの開発2 (学校とのAL協働実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・複数大学(担当教員)に打診をし、実施に向けて調整中。 (現在、3校と調整中) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学ごとに支援内容をカスタマイズ。 ・プログラム開発や評価に関する検討会は、実施する大学を中心としてその関係者らと実施予定。
(活動基盤強化) SALCOでコーディネーターを務める兼務職員の配置。	<ul style="list-style-type: none"> ・若者の社会参画推進事業を担当するスタッフに、学生企画のコーディネートを通じて、スキル強化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・AL(※)協働実施を予定している大学との検討会で、行政職員の参加がかなう余地がないか、様子観察中。 タイミングを見て打診予定。 <p style="text-align: right;">※AL: アクティブラーニング</p>

- 3 大学との協働によるプログラム開発の可能性
 - 地域課題とその解決について学ぶプログラム
 - 社会福祉士養成という角度からのプログラム
 - 福祉科をもつ高校との連携の可能性
- 学生主体による取組の可能性と若手スタッフのコーディネーターとしての力量向上（変化）

- SALCO窓口の利用者獲得～マッチング
 - ・ 機能の不足
 - ・ 学生との直接的な繋がりの不足
- 助成期間終了後の資金調達方法
 - ・ 大学や自治体との関係づくりが十分にできていない
 - ・ 価値を理解してもらおうための実績が不十分

- SALCO窓口の利用者獲得～マッチング
 - ・ 学生主体の企画運営を支援しながら機能の充実を図る。
 - ・ 学生のクチコミによる広報をめざす。
- 助成期間終了後の資金調達方法
 - ・ ALプログラムの協働実施とあわせて開催する検討会で、大学や自治体との協働の仕組みを模索する。
 - ・ ALプログラムの成果を可視化させるために、参加学生だけでなく、受入団体側の変化をアンケートなどで確認する。